

ひょうごに災害を及ぼした主な地震一覧

郷土史探訪ツアーリズム研究所資料: dt18jis.pdf

西暦	和暦	震央	地震規模	出典・地震の通称・兵庫県内の被害状況等
416. 8. 23	允恭天皇 5. 7. 14	奈良県明日香村?		『日本書紀』に記載。被害記事なし。
599. 5. 28	推古天皇 7. 4. 27	奈良県?	(M7)	『日本書紀』に記載。県域被害不明。
684. 11. 29	天武天皇 13. 10. 14	南海トラフ	(M8. 25)	南海トラフ沿いの巨大地震、宝永年間と同様?。県域不明
701. 5. 12	大宝1. 3. 26	旧丹波国		『続日本紀』。丹波や摂津で被害?。
734. 5. 18	天平6. 4. 7	畿内?		原発性地震?。県域でも被害?
745. 6. 5	天平17. 4. 27	岐阜県南西部	(M7. 9)	濃尾大地震級の内陸直下型大地震。摂津地域などで小さな被害と余震が20日間。
827. 8. 11	天長4. 7. 12	京都市北西部	(M6. 5~7)	丹波や摂津地域で小被害?
868. 8. 3	貞観10. 7. 8	播磨中部	(M \geq 7)	播磨諸郡の官舎や諸定額寺の堂塔がことごとく崩れ倒れた。山崎断層系。
880. 11. 23	元慶4. 10. 14	島根県東部	(M7)	出雲地震?。但馬北部で小被害?
887. 8. 26	仁和3. 7. 30	紀伊水道沖	(M8~8. 5)	南海トラフの巨大地震。摂津で津波被害。丹波氷上郡稲畑村の奴々伎(ぬぬぎ)神社社殿の倒壊、淡路北西部野島地区での陸地水没。
938. 5. 22	承平8(天慶1). 4. 15	京都市北部	(M7)	地震規模大?。東部および南部ではかなりの被害。
1096. 12. 17	嘉保3. 11. 24	遠州灘沖?	(M8~8. 5)	東海沖の巨大地震。南東部で被害?
1099. 2. 22	承德3. 1. 24	紀伊半島沖?	(M8~8. 3)	南海沖巨大地震。被害が発生?
1185. 8. 13	元暦2. 7. 9	京都市北部	(M7. 4)	かなりの被害?
1299. 6. 4	正安1. 4. 25			『本朝年代記』。この地震は疑問。(『新編総覧』による)
1317. 2. 24	正和6. 1. 5	京都市北部	(M6. 5~7)	ごく軽い被害?
1331. 8. 15	元徳3(元弘1). 7. 3	紀伊国千里浜田辺湾	(M \geq 7)	疑問視
1360. 11. 22	正平15. 10. 5	紀伊半島沖	(M7. 5~8)	津波摂津兵庫まで来襲して人馬牛の死が多し。疑問視。
1361. 8. 3	正平16. 6. 24	紀伊水道沖	(M8. 25~8. 5)	津波で摂津・阿波・土佐に被害。南海トラフ沿いの巨大地震。被害が発生したことは確実。
1408. 1. 21	応永14. 12. 14	熊野灘沖	(M7~8)	東部にも被害?
1412. 12. 26	応永19. 11. 14	播磨南部		印南部米田(現高砂市米田)周辺建物が崩壊、火災も発生して死者が多し。

西暦	和暦	震央	地震規模	出典・地震の通称・兵庫県内の被害状況等
1432. 10. 6	永享4. 9. 3	姫路郊外		姫路郊外の書写山円教寺・増位山随願寺・播磨国分寺などの堂塔が破壊？。地震の発生？
1448. ー. ー	文安5. ー. ー	丹波多紀郡		丹波の多紀郡で大地震があり，郡西部の大山付近は被害甚大，真偽不明。
1480. 4. 21	文明12. 3. 3	姫路南部		地震，その2日後の洪水。英賀城および飾万津の清水薬師が破壊。被害の主原因は洪水。
1498. 9. 20	明応7. 8. 25	遠州灘沖	(M8. 2～8. 4)	南海トラフ沿いの東海沖巨大地震で，東海道全域に被害。淡路島南部や大阪湾沿岸で津波被害？
1510. 9. 21	永正7. 8. 8	大阪府中部	(M6. 5～7)	摂津地域東部でも被害？
1520. 4. 4	永正17. 3. 7	熊野灘	(M7～7. 75)	確かなこと不明。
1586. 1. 18	天正13. 11. 29	岐阜県北部	(M7. 8)	摂津地域東部や淡路島南部などで被害？
1596. 9. 3		大分？		地震被害は考えられない。この地震の約8時間後に発生した「伏見桃山地震」の際，明石海峡でみられたという海上の大荒れは，この津波？
1596. 9. 5	文縁5(慶長1). 閏7. 13	大阪府東部	M7. 5	「伏見桃山地震」。神戸でも被害が多。
1605. 2. 3	慶長9. 12. 6	東海沖、南海沖	M7. 9	東海沖での一つまたは二つの連動地震？。淡路高安坂村にある千光寺の諸堂が倒れた。津波被害は不明。
1662. 6. 16	寛文2. 5. 1	琵琶湖西岸の志賀町付近	(M7. 25～7. 6)	大規模な内陸直下型地震で，比良断層または花折断層の活動。摂津・丹波、尼崎城が大破，篠山城が小破。
1707. 10. 28	宝永4. 10. 4	潮岬の南20km付近	M8. 4	通称「宝永地震」。被害が発生した。
1804. 7. 20	文化1. 6. 14	生野銀山		但馬の生野銀山で，大地震が発生，山崩れ。
1805. 5. 8	文化2. 4. 10	西脇市・多可郡奥畑村(現西脇市住吉町)		大地震，地割れ家屋も破損、余震。
1818. 6. 3	文致1. 4. 30	宍粟郡安富町		安志谷(現安富町)で地震(前震)，月末にも大地震。農作物に被害。
1819. 8. 2	文致2、6. 12	琵琶湖東岸	M7. 25	但馬の出石・豊岡などで小被害。
1830. 8. 19	文致13. 7. 2	京都市北西部	M6. 5	伊丹，西宮や尼崎で少被害。
1854. 7. 9	嘉永7(安政1)6. 15	三重県西部	M7. 25	木津川断層の活動。尼崎，摩耶山，兵庫津で被害。
1854. 12. 23	嘉永7(安政1). 11. 4	遠州灘沖	M8. 4	通称「安政東海地震」。南海トラフ沿いの東海沖で発生した巨大地震。
1854. 12. 24	嘉永7(安政1). 11. 5	紀伊半島沖	M8. 4	通称「安政南海地震」。東海地震の32時間後に発生。地震や津波による被害が県内各地で発生。

西暦	和暦	震央	地震規模	出典・地震の通称・兵庫県内の被害状況等
1854. 12. 26	嘉永 7 (安政 1). 11. 7	豊後水道	(M7. 3～7. 5)	2日前の安政南海地震の被害との区別が難しい。県内被害も不明確。
1863. 一. 一	文久3. 一. 一	多可郡北東部(播丹国境)		播丹国境付近で大地震。発生年には疑問。翌文久4年あるいは翌々元治2年の地震と混同か。
1864. 3. 6	文久 4 (元治 1). 1. 28		(M6. 25)	通称「杉原谷地震」。加古川上流の杉原谷被害)。真偽不明。
1865. 2. 24	元治2. 1. 29	多可郡北東部		播磨側，丹波側の被害、かなり広範囲。
1869. 4. 9	明治2. 2. 28	六甲山		地震、地割れ。真偽不明。
1891. 10. 28	明治24	岐阜県西部根尾谷	M8. 0	通称「濃尾地震」。県域でも小さな被害。
1916. 11. 26	大正5	明石海峡東部	M6. 1	神戸市から明石郡・淡路島北部にかけての地域で軽い被害。
1923. 9. 1	大正12	相模清江ノ島沖	M7. 9	通称「関東大地震」。県域での推定震度は県南東部の摂津・丹波・淡路が震度4で、ほとんど被害はなかったが、ごく一部地域で家屋の破損。
1925. 5. 23	大正14	但馬円山川河口	M6. 8	通称「北但馬地震」。城崎町および豊岡町(現豊岡市中心部)が大きな被害。
1927. 3. 7	昭和2	京都府北西部大江山付近	M7. 3	通称「北丹後地震」。丹後半島に近い城崎郡や出石郡でかなりの被害があり、さらに美方郡浜坂町や阪神間の諸都市や明石、淡路島北部などでも被害。
1938. 1. 12	昭和13	紀伊水道田辺湾沖	M6. 8	淡路島南端地域および沼島では軽い被害。
1943. 9. 10	昭和18	鳥取市西部沖合	M7. 2	但馬北西部の浜坂町や温泉町で小さな被害。
1944. 12. 7	昭和19	熊野灘北部沖合	M7. 9	通称「東南海地震」。戦争末期に近い頃に発生した南海トラフ沿いの巨大地震。津波。県域でも軽い被害。
1946. 12. 21	昭和21	紀伊半島沖	M8. 0	「東南海地震」の約2年後に発生した南海トラフ沿いの巨大地震で、通称「南海地震」。中部地方から九州にかけて、全体としての被害は「東南海地震」とほぼ同程度の災害をもたらした。県域でも津波と地震による被害。
1949. 1. 20	昭和24	但馬北西部湯村温泉付近	M6. 3	中規模地震。現美方郡温泉町付近で小さな被害。
1952. 7. 18	昭和27	奈良県中部吉野町付近	M6. 8	宝塚市の中山寺総持院の山門などの被害。
1960. 5. 23	昭和35	南米チリ沖	M8. 5	南米チリ沖で巨大地震が発生、津波でかなり大きな被害。兵庫県近辺の検潮による津波の高さは洲本140cm，神戸56cm。
1961. 5. 7	昭和36	佐用郡北部瑠璃寺付近	M5. 9	震源が40kmとかなり深く、姫路で小屋倒壊1，各地で棚の物が落ちる程度の軽微な被害にとどまった。山崎断層沿いの戦後発生地震としては最大規模のもの。

西暦	和暦	震央	地震規模	出典・地震の通称・兵庫県内の被害状況等
1984. 5. 30	昭和59	姫路市北西約 15km付近	M5. 6	山崎断層系の暮坂峠断層で発生した中規模地震。姫路を中心に小さな被害，ほぼ播磨全域のほか丹波の一部地域にも及び，余震も頻発。
1995. 1. 17	平成7	明石海峡東部	M7. 2	兵庫県南部地震。内陸直下型大地震各種建造物があつてなく各所で崩壊。しかし地表に現れた地震断層は淡路島北部の野島断層のみにとどまり，神戸市側の活断層は地表に姿を現さなかった。はじめて震度7。被災市町10市10町、死者6400余人、負傷者4万人以上、全半壊建物25万棟、火災全半焼約7500棟、避難者31万人以上、被害総額約10兆円という未曾有の阪神淡路大震災をもたらした。
2013. 4. 13	平成25	淡路島。洲本市五色町鮎屋西附近	M6. 3	淡路島地震。死者はなしで、負傷者34名、住宅の損壊は全半壊62棟、一部損壊約8000棟、液化、養鶏被害など。最大震度6弱（淡路市）、洲本は5強。18年前の兵庫県南部地震との関連は不明。地震の規模に比べ被害は軽度。

※参考資料：『兵庫県地震災害史』寺脇弘光著、神戸新聞総合出版センター（『理科年表』平成10年版を主に、『新編・日本被害地震総覧』増補改訂版、『古地震——歴史囊料と活断層からさぐる』、『続古地震——実像と虚像』など）

※URL = <http://kdskenkyu.saloon.jp/kdsdata.htm/>